

プレスリリース

2021年12月15日

報道関係各位

アレクシオンファーマ合同会社

ソリリス®を使用する患者さんへのサポートプログラム「ともに」を開始

--プログラム専任看護師（「ともに」ナース）やコールセンター、専用アプリを通じて、
治療開始から継続的に患者さんの治療や生活をサポート--

アレクシオンファーマ合同会社（本社：東京都渋谷区、社長：笠茂 公弘、以下「アレクシオンファーマ」）は、この度、「ソリリス®点滴静注300mg」（一般名：エクリズマブ（遺伝子組換え）、以下ソリリス）で全身型重症筋無力症（generalized myasthenia gravis：以下gMG）あるいは視神経脊髄炎スペクトラム障害（Neuromyelitis Optica Spectrum Disorders：以下 NMOSD）の治療を受ける患者さんを対象に、患者さんのより良い治療生活を支えることを目的としたサポートプログラム「ともに」を開始いたします。

● 患者さんに寄り添う“ともに”の3つのサポート

gMG や NMOSD は、自己免疫疾患の一つで、どちらも国の指定難病となっています。患者さんは、疾患や治療、医療制度や日常生活における問題など、様々な疑問や困りごとを感じることがあります。他方、そのような疑問や困りごとも、なかなか質問する機会がなく、情報が十分でない中で治療を開始・継続する方も多くおられます。

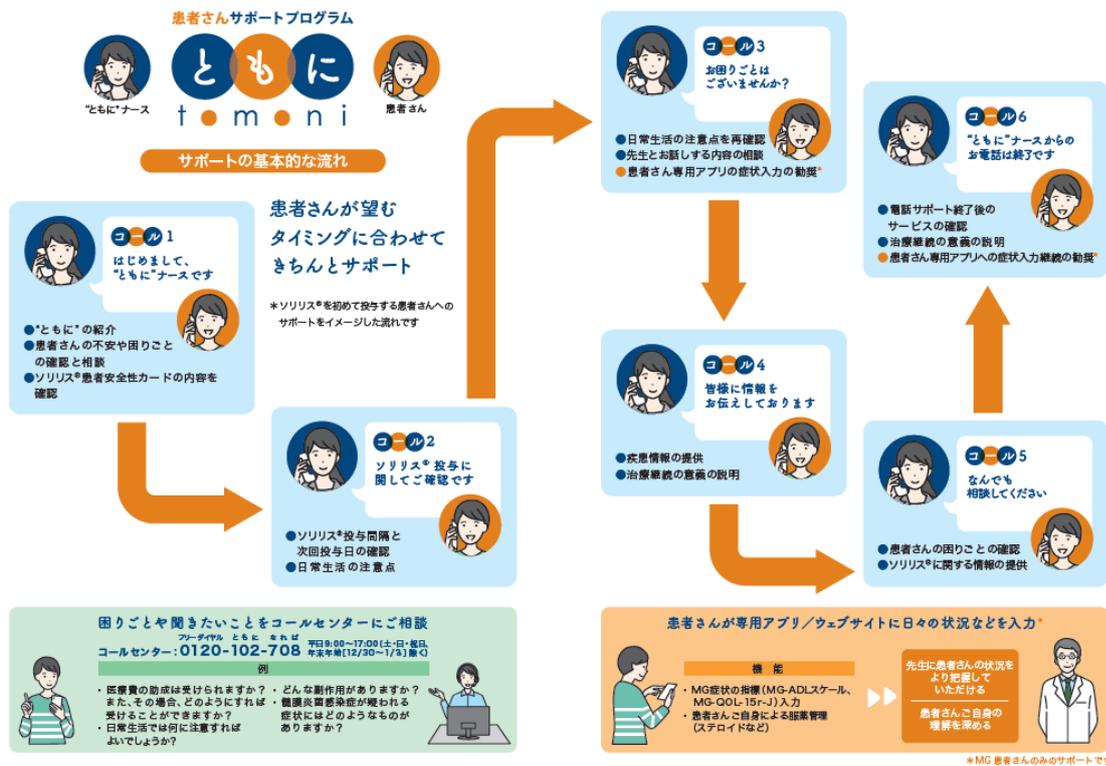


今回開始する患者さんサポートプログラム「ともに」は、プログラムの趣旨をご理解いただいている医療従事者から患者さんへの紹介を基に、希望

する患者さんに無償で提供するプログラムで、患者さんの疾患や治療・生活上の疑問や不安、悩みごとなどに関し、専門トレーニングを受けたプログラム専任看護師「ともにナース」が、電話で定期的なサポートを行います。その他、患者さんが必要な時に電話で相談できるコールセンターや、患者さんが日々の状態を記録できる専用アプリ（gMGのみ）の利用を通じ、疾患の管理や、医療従事者とのコミュニケーションに役立てていただくことが期待されます。

アレクシオンファーマ社長の笠茂公弘は次のように述べています。

「ソリリスで治療される gMG や NMOSD の患者さんに、新たなサポートプログラムをお届けできることを嬉しく思います。このプログラムを通じて、患者さんやご家族に、より適切な情報を得ながら治療に臨んでいただき、適切な治療効果が得られることを願っています。」



*本プログラムは、ソリリスでgMGやNMOSDの治療に取り組む患者さんに対して、疾患や治療に関する情報提供および不安や悩みのサポートを行うもので、診断・治療またはそれに準ずる医療行為を目的としたものではありません。

###

ソリリス (エクリズマブ) について

ソリリスは、免疫システムの一部である補体カスケードの終末部においてC5タンパク質を阻害することで作用する、ファースト・イン・クラスの補体阻害薬です。制御不能な終末補体カスケードの活性化により、自身の健康な細胞が攻撃されますが、ソリリスは2週間ごとに静脈内投与により、終末補体カスケードの活性化を抑制します。ソリリスは米国、EU、日本およびその他の国々において、成人のPNH患者さん、aHUS患者さん、抗AChR抗体陽性の成人のgMG患者さん、ならびに抗AQP4抗体陽性のNMOSD患者さんに対する治療薬として承認されています。なお、ソリリスは、志賀毒素産生大腸菌由来溶血性尿毒症症候群(STEC-HUS) の患者さんの治療は適応としていません。

全身型重症筋無力症 (gMG) について

gMGは慢性進行性の自己免疫性神経筋疾患で、重度の筋力低下が特徴です。gMG患者さんの約85%では、神経と筋肉のつなぎ目(神経筋接合部)の筋膜細胞表面に結合する特異的抗体が産生されます。これにより、補体カスケードが活性化され、神経筋接合部に炎症が起こり、破壊されます。そのため、神経筋伝達障害が引き起こされ、筋力低下および重度の衰弱を引き起こします。gMGの患者さんは、一般的に構音障害、眼球および眼瞼の動きをコントロールする眼筋の筋力低下、複視、バランスの欠如などの初期症状に苦しむ可能性があり、また多くの場合、重症化して窒息、嚥下障害、極度の倦怠感、さらには呼吸不全など、より重篤な症状を引き起こす可能性があります。gMGは年齢を問わず発症する可能性があり、40歳以前の女性と60歳以降の男性に最も多く発症するとされており、有病率は100万人あたり107人から278人と推定されています。

視神経脊髄炎スペクトラム障害 (NMOSD) について

NMOSDは稀な中枢神経系の自己免疫性疾患です。NMOSDの患者さんの約3/4が、血液中に抗AQP4(アクアポリン)4抗体という自己抗体を有しており、これらの抗体を持つ患者さんでは補体カスケードが活性化し、体が主に中枢神経系の視神経や脊髄を攻撃するようになることで、NMOSDを発症します。NMOSDの患者さんは、予測できない発作を繰り返すことが特徴で、発作の後遺症として永続的な障害を引き起こす可能性があります。NMOSDの最も一般的な症状は、失明などの視覚障害を引き起こす可能性のある視神経炎と、麻痺などの運動障害を引き起こす可能性のある横断性脊髄炎です。この病気は主に女性に発症し、平均発症年齢は39歳です。

アレクシオンファーマ合同会社について

アレクシオンファーマ合同会社は、2021 年のアストラゼネカとアレクシオン・ファーマシューティカルズとの統合により生まれた、アストラゼネカグループの希少疾患部門アレクシオン・アストラゼネカ・レアディジーズ（本部：米国マサチューセッツ州ボストン）の日本法人です。アレクシオンは、約 30 年にわたり希少疾患のリーダーとして、患者さんの生活を一変させるような治療薬を発見、開発、販売することで、希少疾患ならびに深刻な症状の患者さんご家族への貢献に注力しています。アレクシオンは、補体カスケードの新規分子と標的を対象に研究を行っており、血液、腎臓、神経、代謝性疾患、心臓、眼科、および急性期の治療薬を開発し、世界 50 か国以上で患者さんに提供しています。

本プレスリリースおよびアレクシオンファーマ合同会社に関する詳細については、www.alexionpharma.jp をご覧ください。

《本件に関するお問い合わせ先》

アレクシオンファーマ合同会社 広報代理 ボックスグローバル・ジャパン株式会社 杉山
TEL:03-6204-4320 E-mail:rie.sugiyama@voxglobalasia.com